

企画・制作 朝日新聞社メディア事業本部

朝日新聞



広告特集

人生後半をアクティブに生きる世代の暮らしを、もっと楽しく輝かせるため、読者会議「商品モニター会」は、企業の協力・協賛により読者が商品開発に参画したり、サービスを体験したりする活動をしています。



左からReライフ読者会議メンバーの赤萩千春さん、樋口みどりさん、稲田彩子さん

「介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園」に体験入居

医住近接で安心して人生を楽しむ

自立型有料老人ホームのバイオフィア的存在、「浜名湖エデンの園」。元気なうちは「自分らしく」ボジティブに暮らしを楽しみ、介護期には手厚いサポートを受けられる。何よりの心強さは、同じ運営母体で、高度救命救急センターに指定されている「聖隷三方原病院」が隣接していること。この恵まれた環境での暮らしを、実際に体験すべくReライフ読者会議メンバー3人が1泊し、入居者との座談会を開催した。



朝の運動に参加する読者会議メンバー。入居者は、時間になると自主的に集まってくる。

心配事が解消されて 第二の青春を謳歌中

木下さん、まずは自己紹介をお願いします。

木下 木下三千代です。84歳です。平成30年から浜名湖エデンの園に入居しています。

一同 ええ!? とてもお若い。木下 皆さんそうおっしゃるけれど、私の持論は「健康は自分でつくるもの」。昔から登山や社交ダンスなど体づくりをしてきたのが良かったのね。

一同 どちらに入居するきっかけは？

木下 人生設計は自分でしない、ね。それに一人で一軒家を管理するのは大変でしょ。決めるまではいろいろ施設を見学しました。「ここは自立型だけど、急に寝たきりにならなうとしてくれますか」と聞いたから、「退去されるまで面倒をみさせていただきます」と言ってくれてね。

樋口 今も主人と2人で暮らしていますが、ゆくゆくは老人ホームに



下肢筋力を鍛えた運動ができるトレーニングルーム。

赤萩 ここでの生活は、どれくらい自由なんでしょうか？

木下 何の制約もありませんよ。外出も旅行も自由。私は自炊している、入居前の暮らしと変わりません。庭の草むしりからも解放されたし、いいことばかり。自分の介護のことや、家の維持、災害時の助けなど、心配事が解消された安心・安全な暮らしが手に入りました。時間も自分の好きなことに使えて、今が人生で一番充実しています。第二の青春というところね笑。

稲田 納得するまで探して 全て自分で決める

稲田 木下さんは本当に理想的です。でもやはり今の慣れた暮らし



座談会に参加していただいた入居者の木下さん

ハキハキと答え、自分の意思をしっかり持った木下さんの言葉に、感心しきりのメンバー。高ぶり笑顔などを交えて、笑顔があふれる和やかな座談会となった。

と、安心・安全な施設での暮らしをてんびんにかけて考えてしまおうとこもあつて。

木下 「老人ホーム」という言葉が、イメージを悪くしているのよ(笑)。新しい暮らしも体力に余裕があるうちの方がなじみやすいですよ。

稲田 確かに1泊させてもらって、想像以上に快適でした。

赤萩 費用も気になりますね。

木下 私もそこは心配で、入ったあとにいろいろと加算されると資金計画も見通せないから、入居前に細かく聞きました。ここは入居金を最初に払って、あとは管理費と食費で食べる時の食費。ほかには部屋の電気代などの生活費のみです。美容院も中にあるし、ATMも隣接する病院内にある。近隣の無料バスも運行している。具合が悪ければ、プザー一つで駆けつけてくれる、病院の予約や送迎もしてくれる。リハビリも必要であれば迎えてくれるから、入った時より元気になる方もいらっしやいますよ。

赤萩 自分で将来のことを考えながら、納得して入居するのがいいですね。

木下 そう納得するまで何度も足を運ぶことが大切ね。そして人任せではなく、自分が元気なうちに決めるのがいいと思います。

一同 ありがとうございます。



夕食は食堂へ。この日、読者会議メンバーが食べたメニューは、ご当地グルメの静岡おでん。通常は2種類のメニューから好きな方を選ぶ。

創設者の理念にも 感銘を受ける

樋口 体験入居はいかがでしたか？

稲田 老人ホームのイメージがとて

赤萩 セカンドライフを何のために

稲田 皆さん自主的に楽しみ、生

赤萩 そのようなことを考えながら

稲田 長谷川保さんの福祉への思いに非

赤萩 会を与えていただきました。

相談員さん、教えて！ 浜名湖エデンの園の ココが知りたい

Reライフ読者のアンケートから「入居した場合に気になること」として挙げた質問を、浜名湖エデンの園の入居者募集センター相談員の杉原浩子さんと岩出翼さんに聞きました。

Q 元気なうちに入居するホームですが、年を重ねると体調に変化もあると思います。どのくらい柔軟に対応してくれますか？

A なるべく自活していただき、必要に応じてサポートします。エデンの園は「トータルヘルスケア」をコンセプトに、医療支援環境に裏づけられた健康管理・介護支援体制を整えています。元気なうちは自活していただき、体調を崩した時は必要な部分をサポートします。自活が難しい場合は、24時間体制の一時介護室で養生してもらいます。そして介護期は介護棟へ移るというシステムです。できる限りの自活と健康促進で、健康寿命を延ばす暮らしを目指しています。

Q 体調が悪くなった時に、病院の紹介や通院サポート、看護はしてくれますか？

A まずは園内の診療所へ。隣には総合病院があります。園内に診療所があり、具合の悪い場合は内線電話をかけていただければ介護職員が送迎に伺います。また同じ運営母体の総合病院「聖隷三方原病院」が隣接されており、皆さん園から歩いて通院しています。入院した場合は職員が週に一度は伺い、洗濯などの身の回りのお世話をします。この場合に追加料金などはいただきません。



有料老人ホームのパイオニア「エデンの園」は、2023年5月開設50周年を迎えました。



日本は、世界に例を見ない速さで高齢化問題が進行しています。核家族化が始まった昭和40年代後半、生きがいを見失った高齢者の孤独・厭世への対応策として開設された「エデンの園」は、有料老人ホームの先駆けとして知られています。1973(昭和48年)に誕生したエデンの園は、医療・介護に90余年の実績を持つ、私たち社会福祉法人聖隷福祉事業団が運営しています。エデンの園の特徴は、高齢期のさまざまな変化に対応できる環境が整っていること。ご入居者がPeaceful(心の平安)を得られるよう、Health(健康管理)、Medical(医療支援)、Care(介護)を柱とするトータルヘルスケアを提供し、自立期や要支援・要介護期だけでなく、その中間の期間や終末期までのすべてをカバーする介護サービスを展開しています。時代の流れや社会制度の変化と融合しつつ、地域のニーズに応えることのできる有料老人ホームとして、高齢者が健やかに安心して過ごせる住まいを模索しつつ成長を続けていきます。



- List of Eden's Garden facilities: 浜名湖エデンの園 (since 1973), 宝塚エデンの園 (since 1977), 松山エデンの園 (since 1980), 油壺エデンの園 (since 1984), 浦安エデンの園 (since 2007), 横浜エデンの園 (since 2010), 藤沢エデンの園 (since 2011), 明日見らいふ南大沢 (since 2016).